



創立40周年

仙台市 連合町内会長会 だより

平成24年〈2012年〉3月

第21号

発行
仙台市連合町内会長会

〒980-8671

仙台市青葉区国分町3丁目7番1号

(仙台市市民局地域政策課内)

電話 022-214-3810

http://www.sendai-sirentyoukai.com

仙台市連合町内会長会が発
足して、四十周年を迎えた節
目の年に会長に就任しまし
た青葉区連合町内会長協議会
の武田です。よろしくお願
い申し上げます。

昨年、三月十一日発生した
古今未曾有の東日本大震災に
より、四十周年を迎えるに当
たって、皆様と共に喜びを分
かち合いたいと思ひ計画して
おりました記念行事を中止せ



ごあいさつ

会長
武田 篤 夫

さるを得なくなりましたが、
ここに毎年発刊しています
「仙台市連合町内会長会だ
より」第二十一号を四十周年記
念号として発刊し、皆様にそ
の意義をお伝えすることに
なりました。

さて、政府は震災復興につ
いて九ヶ月を経て、ようやく
第三次補正予算と復興庁の設
置を決定し、復興への足掛か
りができました。仙台市では、
仙台市震災復興計画を定め、
五年間で復興を進めるための
実施計画を策定し一日も早い
復興を達成するよう取り組ん

でおります。仙台市連合町内
会長会としてもこの課題に対
し全面的に協力して参る所存
です。

他方、欧州債務問題の混乱
の深刻化により、世界景気の
減速が鮮明になる中、国内で
は未だ終戦のない円高による
経済の低迷や、企業の空洞化、
就職難、社会保障の増加など
による財政の悪化など、様々
な課題があります。

また、地域においては、少子
高齢化が進み、住民のニーズ
の多様化など、町内会活動が
極めて難しい環境になってい
ます。

一方、今回の大震災で多数
の方々が避難所生活を経験さ

れ、いかに絆・地域の支え合
いが必要であるかを再認識さ
れた事と思います。

今回の震災により、町内会
の運動の原点と言われており
ます「向こう三軒両隣」の相
互扶助の連帯感、良い社会環
境・福祉の向上の意義・重要
性を実感したところであり、
今後の復興・復興に向けて市
民が一人ひとりがこの難局に
立ち向かっていくことを確信
しております。

最後になりますが、「絆を
合言葉に皆様と力を合わせ、
地域コミュニティの活性化に
貢献して参りたい」と存じます
ので、ご理解・ご協力を賜り
ますようお願いいたします。



ごあいさつ

仙台市長
奥山 恵美子

仙台市連合町内会長会の皆
様には、日頃から本市の市政運
営に対し、格別なるご理解とご
協力を賜り、厚くお礼申し上げ
ます。また、仙台市連合町
内会長会が創立四十周年の節
目を迎えられましたことを、心
よりお祝い申し上げます。

東日本大震災のもたらした
未曾有の災害からの復旧へ、
復興へと、全力で進む日々が
続いております。今年は「仙
台市震災復興計画」を加速
実施していく年となります。
復興計画は、未曾有の大震
災から立ち上がり、百五万仙
台市民が一人ひとりが、将来の
希望に向かって歩みを進めて
いくための、いわば羅針盤と
なるもので、町内会をはじめ

市民の皆さまから貴重なご意
見・ご提言をいただきながら
策定することができました。
目指すのは、市民の生命と
暮らしを守る「新次元の防
災・環境都市」の実現です。
被災の考えを基本とした多重
防御、多角的なエネルギー対
策をはじめとする環境政策の
新しい展開など、新しいまち、
新しいくらしのモデル都市と
して仙台を再生させたいと考
えています。

今後、仙台市民の知恵と経
験を結集したこの計画をもと

に、杜の都の再生に向け、町
内会の皆様のお力を最大限に
いただきながら、ともに復興
への取り組みを進めてまいり
たいと考えているところで
す。

皆様には行政と住民の架け
橋として、共にこれからの仙
台の復興まちづくりにご協力
賜りますようお願い申し上げ
ます。

結びに、貴会のますますの
ご発展と、会員皆様の今後の
ご健康をお祈りいたしまし
て、ご挨拶いたします。

創立40周年記念 特別寄稿

今後の復旧・復興に向けて

青葉区連合町内会長協議会

会長 武田 篤夫



青葉区連合町内会長協議会は、青葉区内の地区連合町内会長で組織し、区民の区政への積極的な参加を培いながら、連合町内会ごとに開催している地域懇談会などを通して、区に対し地域課題の提起を行うなど、区政の円滑な運営に協力しております。

平成二十三年三月十一日、仙台は未曾有の大震災に襲われました。

青葉区は、宮城野区や若林区のように沿岸部の津波による甚大な被害はなかったものの、丘陵住宅地域における宅地の被害や、都心周辺地域でのマンションの被害などが発生し、今もなお、思うように

復旧が進んでいない状況が続いております。

仙台市が震災復興計画を策定しましたが、この計画に沿って、一刻も早い復旧、さらには東北の牽引役としての復興の実現を期待しております。

一方、町内会では今回の震災後、水や燃料、物資の調達、建物内の片付けなど、地域での支えあいによる共助の取組みにより、被災された住民への支援を行ってまいりました。少子化、高齢化の影響で町内会を取り巻く環境は、変わってきておりますが、このような時期だからこそ、町内会の原点である、向こう三軒両隣と昔から言い伝えられる、互助精神と連帯意識の高揚が必要と考えております。本協議会としては、町内会の運営を支援しますとともに、皆様が安全で安心して暮らせる、まちづくりの実現に向けて、行政との建設的な協力関係を維持していきます。

終わりに、今後とも青葉区連合町内会長協議会に皆様の協力ご指導並びにご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

悲しみ苦しみから

笑顔になるまで

宮城野区連合町内会長協議会

会長 吉川 時夫



五月に宮城野区連合町内会長協議会の会長に就任しました。今年度は、仙台市連合町内会長会が誕生して四十周年の節目の年を迎えました。仙台市の市政運営に協力し、明るく住みよいまちづくりにより果敢と自負できると思いますが、これを機にますますの発展を期して努力していきたいと思っております。

同時に昨年仙台市は未曾有の震災に遭遇しました。

三月十一日の大地震、津波、四月七日の余震とあり、宮城野区の沿岸部は津波で壊滅的な被害を受けましたし、内陸部の被害も大きいものでした。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

震災から四カ月を迎えた七月十一日、仙台市主催の慰霊祭が営まれ、奥山市長は「復興への道のりは長く険しいが、亡くなられた一人一人の

無念を決して忘れることなく、しっかりと歩んでいく」と挨拶されました。三月十一日から苦しみ、悲しみが始まりましたが、これを笑顔と元気に変えて行かなければなりません。復興への町内会の力強い取組みを見せるときであると思います。

市の震災復興計画には、仙台市連合町内会長会も意見・提言を提出しました。実施計画は市民の意向・要望をしっかりと反映し、より具体的に策定し一日も早い復旧復興を推進する方針に期待しております。また、地域防災計画の見直しには、今回の震災の教訓として「多重防御」に加え「逃げる避難」を基本理念に、市民の命と暮らしを守る「減災まちづくり」にむけた総合対策が構築されるべきであります。

先日虚子の詠んだ一句が目にとまりました。「国安く冬ぬくかれと願ふのみ」震災からの復旧復興への取組み、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）参加交渉問題、年金制度の見直し、生活保護受給者の増加等々、私達を取巻く生活環境は大変であります。が、国の安定した営みが進んでいて欲しいと思っております。

「復興へ！」

地域住民の知恵と力を

若林区連合町内会長協議会

会長 佐藤 いわ子



仙台市連合町内会長会創立四十周年おめでとうございませう。四十年前、四十有余の連合町内会が集り、活動を始めたとき及んでおります。めまぐるしく変化する社会情勢の中にあつて、住みよいまちづくりと市民福祉向上をめざす仙台市連合町内会長会の日頃の活動を誇らしく思うとともに、幾多の先達のご苦勞に改めて感謝の念を覚えざるを得ません。

この間を顧みますと、行政においては、平成元年に政令市の移行に伴い自治体組織の大きな変化がありました。経済に目を転じれば、バブル経済の崩壊やリーマンショックによる景気の悪化。そして少子高齢化、価値観の多様化といった時代の変遷も、少なからず町内会運営に影響を及ぼし続けております。しかし、なんといいても、昨年三月十一日の東日本大震災はあまりに

も大きすぎる衝撃でした。

岩林区では地震に加え、千年に一度という大津波により甚大な被害を受け、多くの人命や財産が失われました。あの未曾有の大災害から早くも一年が過ぎようとしております。ようやく復興への緒に就いたという状況ですが、道のりは長いでしょう。

この震災によって私達は、自助、共助、公助の大切さを痛感させられました。発災当時、被災者支援活動に尽力された町内会が多数ありましたことは皆様ご承知のことと思います。また、激甚被災地域の集団移転など、今後の復興事業においてはコミュニティの結束が不可欠です。近隣の住民がともに協力し合い、よりよい地域づくりに取り組む共助の姿勢こそ、これからのコミュニティ形成に求められるものであると、この震災を通して再確認いたしました。多くの市民も、あらためて町内会の必要性を強く感じたものと思います。

これからの、共助の精神のものと地域住民の知恵と力を結集し、仙台市連合町内会長会と歩調を合わせ、住みよまづくりと市民福祉の向上をめざして歩を進めてまいります。おわりに仙台市連合町内会長会をますますの発展を祈念いたします。

地域団体との連携で市民地域力の向上をめざして

太白区連合町内会長協議会

会長 柿沼 敏方



創立四十周年の佳節を迎えられましたこと、心よりご祝詞申し上げます。

この度の大震災により被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興・復興をお祈りいたします。

町内会の皆様には、日頃より地域の発展と、心の通うコミュニティづくりに献身的なご尽力を頂いておりますことに深く感謝申し上げます。

本協議会は、平成元年に結成し、現在、二十三連合、二百六十二町内会、七万六千四百七十八世帯で構成されております。多様化する社会環境の中にあつて、各町内会には、「住民の手による住みよいまちづくり」を目標に、鋭意活動を推進しておりますが、更に今日の使命や役割を確かにして、活動を展開して行くことが肝要だと思います。現在、推進している具体的

な活動としては、町内会・地区社協・民児協の三者で構成される太白区災害対策総合検討委員会(三考委員会)を平成二十一年八月に発足させ、要援護者支援体制の構築や地域防災力の向上、各団体情報共有化、協働のあり方などについて検討を重ね、それらに關しての提言・要望を市長に提出するなど、各団体と共に実践してまいります。

と。とりわけ各地域では、学校も含めた四者会議を開催し、地域の諸課題や避難所運営等について話し合いを進めてまいりました。このような活動を通じて各団体が有機的に連動することが、様々な場面において市民力の向上につながるものと確信しているとこです。

今後は、この大震災の教訓を正しく後世に伝えつつ、市民一人ひとりの防災意識を啓発し、地域防災力の向上を力強く推進してまいります。そのためにはも地域の市民力が十分に発揮できるよう、コミュニティの活性化に一層努めてまいりたいと考えています。新しい次第でございませ。結びに、仙台市連合町内会長会の益々の発展と皆様の活躍、ご清祥をご祈念申し上げます。お祝いの詞といたします。

「強い絆で未来に向かって！」

泉区連合町内会長協議会

会長 樋口 稔夫



今年度は、仙台市連合町内会長創立四十周年の記念すべき年となっておりますが大震災抜きに語れない年となっております。

泉区連合町内会長協議会は、泉市が仙台市に合併した翌年の平成二年に仙台市連合町内会長会傘下の組織として発足し、今年で二十二年を経過しております。

泉区は昭和三十年代後半から丘陵地帯を中心に宅地開発が急速に進み、全国有数の人口急増都市として発展し、地下鉄泉中央駅への延伸などの効果も加わり、現在では人口も二十一万人を超える発展を続けております。

これから隣接する北部地域は先端技術産業の集積のほか、研究開発機能や新産業支援機能の集積なども進められており、これらの受け皿となる地域として、個性的で誰でも住みよくなるような「安心・安全で住みよいまちづくり」を目指して邁進しているところです。

さて、三月十一日午後二時四十六分発生しました未曾有の

「東日本大震災」は地縁組織の町内会始め連合町内会に多くの試練と課題を与える事となりました。例えば、各町内会では発災直後、

ご自分の家族などを省みず地域住民のニーズに答える体制がとれたか、また大災害に対応した事前の備えがなされていたかなど、私達住民組織の在り方が問われる多くの課題が浮上しております。スピード感を持った早急な対応を迫られております。

特に発災直後の初動活動には地域に於ける「向こう二軒南隣」の日常コミュニケーションが「物を分ける」「助け合う」という「共助」の基本であることの大切さが身に沁みるほど経験出来たことではないでしょうか。

また、五月二十日全国自治会連合会の兼松会長が宮路連絶のなかで宮路を仙し、仙台市連合町内会長会に対し、励ましの言葉と岡山市連合町内会始め全国自治会連合会からの多額の義援金贈呈があり、被災地の私達に全国の仲間から手を差し伸べて頂き、「絆」という言葉がこれほど力強く頼りに感じられたこと、ありません。

これから町内会では「絆」を強く、未来に向けた日常活動の積極的な積み重ねが最も大切と考えている昨今です。

終わりに、仙台市連合町内会長会の益々の発展と皆様の活躍とご清祥をお祈り申し上げます。お祝いのご挨拶と致します。

仙台市連合町内会長会

本会は、各区連合町内会長協議会の会員で構成し、協議会相互の連携を図り、地域社会の振興・発展・市民福祉の向上と市のまちづくりに対する意見や要望また、各種審議会等に参画しています。

▼正副会長

本会の運営や行政との協議などの場として、毎月定例の会議を開催しております。



正副会長会

主なものとして、①仙台市との共同により、地区連合町内会長へ東日本大震災の経験を踏まえた今後の防災対策のアンケートの実施および、結果の取りまとめ②仙台市震災復興計画(中間案)についての意見・提言等の提出③町内会関係について行政等の調整を行っております。
また、市等の審議会に住民代表として参画しております。

▼総会

七月一日、バレスへいあんを会場に定期総会を開催しました。

平成二十二年度事業報告および収支決算報告また、役員改選など五議案について、質疑・応答後、満場一致で承認されました。

新会長には、青葉区連合町内会長協議会の武田会長が選任されました。

また、長年にわたり町内会活動に功績があり、今回勇退された片桐副会長及び、大場副会長に、感謝状が贈呈されました。



総会

▼役員会・役員研修会

第一回は六月二十日開催。定期総会に諮る議案等について。第二回は十一月十七日、開催。二十三年度前期の事業進捗状況や会計収支について。

て。第三回は一月二十五日、開催。二十四年度の事業計画等や本会の運営等について協議しました。



役員会

また、役員研修会は、十一月十七日開催の役員会開催当日に行われ「自転車の安全運転マナーについて」をテーマに、宮城県警察本部交通部交通企画課 佐々木交通安全企



役員研修会

自転車のルールやマナー守っていますか？

仙台市内でも自転車のルールやマナーを守らない利用者が多く見られます。自転車は便利な乗り物ですが、一歩間違つと悲惨な事故の被害者にも加害者にもなる恐れがあります。

自転車の乗り方について一度見直してみましょう。

○自転車は原則車道を走行する

自転車は車両であり、車道の左端を通行するのが原則です。ただし、次の場合は歩道を走ることができます。

- ・道路標識等で歩道通行ができるとされている場合
- ・13歳未満の子ども、70歳以上の高齢者、身体の不自由な方
- ・車道の状況によりやむをえない場合

○歩道を走行する際は車道側を徐行する
歩道は歩行者が優先です。自転車で通行する際は車道寄りを行き、歩行者の通行を妨げる場合は一時停止しなければなりません。

○「ながら運転」の禁止

傘差し運転や携帯電話を使用しながらの片手運転は大変危険であり、禁止されています。

○夜間はライトを点灯する

夜間は必ず前照灯および尾灯(又は反射器材)をつけなければなりません。

ルールやマナーを守り、思いやり運転を心がけ、安全に自転車を利用しましょう。

仙台市市民局市民生活課
TEL 022(214) 6148

画官を招き、研修会を行いました。
役員からは、非常に関心の高い内容で今後の取り組みに参りになった等好評でした。

▼会員研修会

例年開催しておりました会員研修会は、東日本大震災の影響により中止しました。

▼市長と懇談

七月二十日、役員改選に伴い新正副会長が、奥山市市長を訪問し、東日本大震災に伴う地域の課題や復興・復興の取り組み等について会談しました。



奥山市市長と懇談

また、十一月六日、正副会長が、奥山市市長を訪問し震災復興計画や実施計画、避難所のあり方、震災後の情報伝達等について意見交換を行いました。

▼東日本大震災関係

義援金参百五十拾萬円が、全国自治会連合会と岡山市連合町内会から贈呈され、災害対応等として各地区連合町内会へ配分しました。



義援金の贈呈

また、震災等に関する地区連合町内会長へのアンケート調査の実施・仙台市震災復興計画に対する意見・提言等を行いました。

青葉区連合町内会長協議会

平成二十三年度活動状況

△総会

五月十七日、渡邊青葉区長を来賓に迎え、青葉区役所で開催。平成二十二年度の事業報告・収支決算報告、平成二十三年度の事業計画案・収支予算案について原案どおり承認されました。

△新任町内会長研修会

六月三十日、新任町内会長六十三名と各地区の連合町内会長が参加し、仙台市役所で開催。当協議会で作成した「町内会活動の手引き」を参考に、町内会の役割や町内会に關係する諸制度について研修しました。

△連合町内会長移動研修会

十一月二十七日に開催し、大震災による宅地被害の現地視察と仙台市天文台の施設見学を行いました。

△町内会会員研修会

十二月九日、エルパーク仙台において開催。青葉区家庭健康課の酒井氏を講師に迎え「災害後の健康管理」というテーマで研修しました。

地域活性化を目指して

会長 早坂 晃弥

『作並小学区連合町内会』

作並小学区連合町内会は、奥羽山脈の山形県境に接し、R仙山線、国道四八号線に沿って集落が発展した山村で、三町内会で構成されている三百四十七世帯の小規模な団体であります。豊かな自然環境に恵まれて、春は新緑、夏は爽やかな秋の紅葉は素晴らしい冬は雪景色と四季折々の風情に富んでいて、仙台の奥座敷作並温泉には多くの方が観光に訪れてまいります。

幕末の回文師仙台庵（細谷勘左衛門 仙台市荒町）が、作並を詠んだ歌を縁に、毎年、日本ことば遊び回文コンテスト交流大会を、作並温泉を会場に開催しております。粋で知的なことは遊びとして古くから日本に伝わる回文（上り下り）から読んで同じことばをタケツバネを題材に作並を拠点に回文の里づくりを

進め、回文をことは遊びの文化として発展させ、温泉のまちである作並地区の魅力あるまちづくりを推進し、地域の一層の振興に一丸となつて取り組んでおります。これまでに全国各地から寄せられた作品は一万二千点あり、入選作品を年度毎に編集した作品集と仙台各旅館等で販売しております。また、市民センターと共催で小学生を対象に回文教室、回文かるた大会を開催してことば遊びのおもしろさの普及に努めております。

地域内にある団体は小規模な団体が多く、スタッフが複数の団体に保たれていて単独実施が困難なので、目的が共通している行事は昔から受け継がれて来た共助の心を持って、連携を密にして共催行事として実施してまいりました。

地域内の課題は急速な人口減少と高齢化率三十四％の過疎地となつていくことです。人口減少に歯止めをかけ活力ある地域づくりをするために、この課題を地域全体の共通事項として取り上げ、住民一丸となつて、地域の振興発展と住み良、まちづくりに関係機関等の協力を得て取り組んでいるところです。



回文かるた大会

くりをするために、この課題を地域全体の共通事項として取り上げ、住民一丸となつて、地域の振興発展と住み良、まちづくりに関係機関等の協力を得て取り組んでいるところです。

『北仙台地区連合町内会』

北仙台連合町内会紹介

会長 花刈 蔵之助

北仙台地区連合町内会は、社会保険病院の北側及び泉区との区域の丘陵地帯に位置しており、二十二町内会、約四千五百世帯が生活しています。

当地区には、北仙台小学校及び北仙台中学校があり、子どもたちが元気に登下校する姿が見られます。また、社会教育施設として、水の森市民センター、北仙台コミュニティセンターがあり、地域の皆さんにとって、歌に踊りにと大変有意義に利用され、憩いの場所となっています。このような地域で暮らせることは、本当に幸せなことと思っております。

当連合町内会の主な活動を簡単に説明させていただきます。毎月五日に定例会議を開いており、主な内容として、区連協議会の配付資料の報告説明、各町内会の状況報告及び問題点についての協議

等を行い、全役員に周知徹底をはかるようにしております。

また、昨年の秋、防災訓練を実施いたしました際には、仙台市消防局の皆様、消防団員の皆様のご指導のもと、消火器の取り扱い、人命救助方法、救出訓練等を行うことができました。参加者は五百人を超え、防災意識の高揚をはかることができたのではないかと自負しております。

今年度は、新たな事業として、弱者救済をスローガンに掲げておりましたが、先の大地震で、避難計画を変更し、震災対応を最優先で行いました。当地域にある双葉ヶ丘町内会では、全壊家屋、擁壁の崩壊や亀裂等の大きな被害を受けました。他の町内会では、屋根瓦の破損や落下、ブロック塀の傾斜があったものの、比較的被害は少なかったようです。しかし、災害後の避難生活の支援は本当に大変です。特に、飲料水・灯油等の確保については大変難儀しました。その経験を生かして、今後は各町内会ごとに、物資の備蓄を心掛けたと考えております。

被害状況が一段落しましたら、今年度の目標であった「弱者救済」について、地元の民生委員の方々の支援をいただきながら最善の策を練り、地域住民から高く評価されるような安全安心で笑顔あふれる町内会にしたいと思っております。

宮城野区連合町内会長協議会

平成二十三年活動状況

△総会

五月二十六日、木須宮城野区長を来賓に迎え、宮城野区役所で開催。平成二十二年の事業報告・収支決算報告、平成二十三年の事業計画案・収支予算案が原案どおり承認され、役員改選では、会長に吉川時夫岩切地区町内会連合会長が選出されました。

△移動研修会

八月二十三日、開館五十周年を迎えた仙台市博物館では、仙台平野の歴史展が開催されておりました。佐藤館長及び学芸員の説明後、あの一の記録とこれまでの幾度かの地震と津波の記録の展示を見学しました。その後、宮城野区と隣接する蒲鉾工場で笹かま焼きプチ体験を行い、参加者四十四名和やかな研修会でした。

△町内会長研修会

十一月二十四日仙台サンラザで役者の樋渡宏嗣氏を招いて歌舞伎のせりふで日常生活でも使える流暢な会話を練習しました。

《高砂地区

町内会連合会》

東日本大震災から

会長 半澤 宏明

高砂地区町内会連合会は四十九町内会、約二万世帯のマンモス連合町内会です。福室、高砂、鶴巻、岡田、中野、田子、中野の各小学校単位に町内会の協議組織をつくり、それを中心に連携を図り、それぞれ理事を選出し連合会としての活動を行うという体制をとっています。

昨年、われわれの高砂地区はあの三月十一日の東日本大震災で宮城野区内最大の被災地域でした。

十三町内会が津波の被害を受け、なかでも沿岸部の七町内会が壊滅的な被害を被りました。また、一町内会が解散せざるを得ませんでした。犠牲になった方は二百三十人を超え、その中には町内会員や要支援者の避難誘導に当たっ

ていた町内会長、役員五人も含まれています。全ての地域で指定避難所の小学校を中心に精一杯避難所の対応にあたりましたが、長いところでは二、三カ月にわたりました。



七北田川をさかのぼる津波
2011.3.11 15:50ごろ
福田町郵便局付近

昨年八月一日には、津波被害を受けた十三町内会で「震災復興連絡委員会」を組織して、復旧・復興に向けての取り組みを始まりました。被災地の様々な課題について、仙台市の復興計画に反映してもらうために、何回も会合を開き、仙台市震災復興本部の小島副本部長や宮城野区の幹部から話を聞きました。

十一月には高砂地区全町内会長の研修会を開き、仙台市の震災復興計画を聞き、高砂地区全体で被災地の復旧・復興を支えて行くための認識の共有を図りました。

十二月には、震災復旧・復興

興について地域から出された二十一项目の要望を中心に宮城野区長はじめ仙台市や区の幹部も出席した「地域懇談会」を開催しました。



2011.3.12 福室小学校の避難所

旧・復興するからです。

仙台市の復興計画も決まり動き出します。しかし具体的な取り組みはこれからが大変です。岡田地区では、災害危険区域指定の線引きが要望を入れた形になりました。中野小学校の再建はどうなるのか、築かれてきた小学校を中心にした地域コミュニティの再構築で復興を願う中野地区の希望はどうなるのか、また、住宅の再建に伴う支援の問題など、強い関心を持って町内会連合会としてのかかり



2011.3.18 中野小学校

方、支援のあり方を考えながら活動して行きたいと思っています。

また、仮設住宅が高砂地区に六ヶ所建設され、三万世帯を超える人が生活していますが、生活の様々な課題に取り組むために自治組織を立ち上げ、元になる町内会とも連携しながら活動する体制も昨年できあがりました。

しかし、引きこもりや孤独な環境の中で起きる震災二次被害を防止する仕事はこれからが重要でした。

さらに民間住宅を借りて避難生活をしている町内会員との連絡体制の構築も大事です。

今後は、高砂地区社協、民児協と連携を強め取り組みたいと考えております。

若林区連合町内会長協議会

平成二十三年度活動状況

△総会

六月二十八日、一ヶ月遅れで開催。平成二十二年事業・収支決算報告、平成二十三年度事業計画案・収支予算案が原案どおり承認された。

△新任町内会長研修会

八月一日、三十四名中二十四名参加。「町内会活動の手引き」による研修や、被災地域の会長による津波体験談等の事例発表を聞きながら「東日本大震災発生時の町内会活動について考えました。そのあと、区連協理事との意見交換を行いました。」

《七郷地区町内会連合会》

起ちあがれ七郷

復興を目指して

会長 庄子 義

当地区の二十二年度後半の事業を振り返ると、二十三年一月九日には新年祝賀会を盛大に開催し、二月十日には

区長を囲み地域懇談会を持つ等、七郷のまちづくりと未来像について大いに語り合った。ついで二月二十一日に「市総合防災訓練会議」が開催され、二十三年度六・一二防災訓練の開催場所に七郷地区が指定された。そして三月

十一日、この日午前中は中学校の卒業式。午後は町内会長も出席して市民まつりの総決算会議で二時四十分終了し解散。その直後の四十六分、マグニチュード9.0、震度7に達する大地震と大津波が発生した。

これにより七郷地区二十六町内会中、荒浜地区五町内会は壊滅、東部道路東側の四町内も冠水し、惨憺たる状況となった。

当連合会も翌十二日、蒲町・七郷避難所ごとに運営委員会を組織し、炊き出し救援物資の受け入れ・管理等の任務に当たった。三月二十五日に緊急町内会長会を招集し、被害の状況把握と今後の対応等協議した。引き続き区長等市当

局に、十四項目の要望書を提出した。

その後町内会長・民生児童委員の合同会議を開催し、避難所の再配置や運営問題、ガレキの撤去や仮設住宅の建設・申し入れ、併せて在宅避難者・高齢者等への支援物資の配布等に力を入れた。

六月四日には荒井小学校用地に待望の仮設住宅が完成し、七月には「東通仮設住宅町内会」が設立された。九月に入り他の四ヶ所の仮設住宅にも自治会が誕生した。

十月末、「津波からの避難の手引き」が全世帯に配布された。これは沿岸部にある六郷・七郷地区四十八町内が連携して、平成二十一年五月「仙台東部地区津波対策連絡会」を発足させ、一万五千人の署名を集めて陳情した結果である。

伝統行事の七郷市民まつりは二十八回目となり、今年は「起ちあがれ七郷・復興をめざして」をスローガンに掲げ十一月二十七日一日限りではあったが盛大に開催した。

加えてこの度の大地震で百八十余名の犠牲者の鎮魂と復興の願いを込めて「東日本大震災慰霊塔」を十二月十一日、荒浜の海辺に建立した。災害対応に明け暮れた一年であったが、今後は会員相互

の連携をさらに強化し、七郷地区の復旧と復興に万全を尽くしてゆくつもりである。

《若林区町内連合会》

ふれあいを大切に

区行政と共に歩むまち

会長 山田 文司

五十二年の歴史を持つ若林区町内連合会は、二十二の単位町内会が加盟し、約四千世帯で構成されています。

地区の北には旧若林城（現在は宮城刑務所）、南端に広瀬川が流れる緑に囲まれた河川公園があり、歴史と自然にあふれる地域です。

広瀬川のほとり近き場所にある旅立稲荷神社は地域の守り神で、その昔、名將伊達政宗公が参勤交代で江戸に上る際、道中の安全祈願をした由緒ある神社です。現在も市民



大雨による冠水 (H22. 12. 22)



若林ふれあいまつり

の安全を守るかのように、地区の南端に鎮座しています。毎年六月、若林市民センターで各種団体や市民セクター利用サークル、町内連合会などによる実行委員会が主催する「若林ふれあいまつり」が開催されています。まつりでは、踊りや合唱の発表、出店などもあり、地域の多くの皆様に親しまれています。来年度も六月二十四日に開催予定で、準備を進めているところでは、

地区では、台風や集中豪雨による冠水に悩まされており、その被害は、若林東光会など三つの町内会に集中しています。地域では青・壮年層を中心に災害対策部を組織し、若林区役所では危険箇所の見回りや土嚢を配布するなど問題解決のため互いに力を重ねており、行政と地域の「協働」は確かな歩みを継続しています。

太白区連合町内会長協議会

平成二十三年度活動状況

△総会

六月十日、西堀太白区長を来賓に迎え開催。二十二年度事業報告・収支決算報告、二十三年度事業計画案・収支予算案の議案を提出し、原案どおり承認されました。

△新任町内会長研修会

十月二十日、太白区役所五階ホールにおいて、新任町内会長二十七名の参加を得て開催。「町内会活動の手引き」をもとに、町内会の役割や各種助成制度等についての研修と町内会活動や運営に関するトークセッションを行いました。

△全体会

十月十三日、一月三十日に開催。事業の実施内容について議論するほか、「仙台市震災復興計画の策定について、各地域の実情と課題など活発な意見交換を行いました。

△移動研修会

十一月二十四日、秋保において開催。「これから防災」東日本大震災を振り返り「と題して、太白区区民部長から「東日本大震災の被害

状況と対応を振り返り」の講話と「震災における地域活動」の事例を通して、今回の震災の総括とこれからの防災のあり方について活発に意見交換しました。

《人來田学区町内会連合会》

日々の声掛けから始める

地域コミュニケーション

会長 佐々木 仁志

私達の人來田学区町内会連合会は、太白区の象徴である太白山の麓に広がる山地を削り、切り開いた所に有る五つの町内会で結成した連合体です。初代会長が連合会結成以来十二年にわたりリーダーシップを発揮してきましたが、転居のため辞任、小生が引き継ぐ事になり六年を経過しようとしています。従来は必要に応じて会議を召集しておりましたが、現在では毎月の定例開催とし、会議の内容によつては、地域包括支援センター・地域の介護施設や宮城大学食産学部の方々にも参加を呼びかけ、諸活動が協力し合える様になっています。

当連合会は、旧行政区域の異なる地区の集まりであるため、活動内容によって山田地域の会に属してみたりと大変複雑な動きもありますが、小規模の連合会ゆえにやりやすい面もあります。例えば、大規模災害発生時の対策を震災前に検討協議し原案ができていたことです。その結果、学校から、校門や体育館等の鍵を事前に借用することができ大変役に立ちました。もう一つは、地域で集まり事がある度に、向こう三軒両隣は仲良し何事も協力し合える様にとの思いから、地域清掃や学区民運動会などで「高齢者は参加できなくても良いから、元気な顔を見せてください。」と言いつけて来ました。

今回の震災で高齢者宅を巡回したとき、「〇〇さんは元気だよ」「〇〇さんは息子さんの家に行つてますよ!」などの情報が頂けた事はとても助かりました。

今後も、日々の声掛けを大切に、更に住みよいまちづくりに邁進して行くつもりです。

《中田中部町内会連合会》

飛躍する町内会をめざして

会長 三浦 芳朗

私たちの連合会は、仙台バイパス東側に位置し、袋原小学校を中心に加入世帯数四千二百八十八世帯、十一町内会で構成されています。地域活動が活発で学校と地域共催の学区民大運動会、スポーツ大会、夏祭り、子ども達を守る登下校時パトロール(三百五十名登録)などを実施しています。

今回の東日本大震災では、大津波警報が出るとう連合会役員・各町内会長が、指定避難所の袋原小学校へ駆けつけ、先生方との連携により避難所を設営しました。ライフラインがストップした中で、階段や教室・体育館にはロウソク、都市ガスの代わりに個人のガスボンベを借用。トイレの



避難所運営(袋原小学校)

水は、若い男女が「手伝います。」と言って集まり、プールの水をバケツリレーで運び確保することができました。地域住民が協力し合えた事は非常に嬉しかったです。食料は、備蓄米八百食に對し避難者が千人を超えていたので工夫して人数分を確保。地域の弁当屋さんからの米の提供や、地域のくちコミにより、多くの食料支援情報を活用する事ができました。その結果、多くの食料支援物資が届いたの、近くの老人ホームや名取市の避難所にも運び、大変喜んで頂きました。

今回一番困ったのはガソリンでした。発電機や自動車が使えないと何もできません。是非、今後の課題として行政で検討して頂きたいと思っています。

五日間の避難所運営でしたが、今回の経験が地域の絆を益々強くしたように思います。連合会としても、住み良いまちづくりのため様々な活動が続けることが大事です。継続は力です。これから飛躍する町内会を目指して頑張ろう。

泉区連合町内会長協議会

平成二十三年活動状況

△総会

五月十三日開催。平成二十二年事業報告・収支決算報告、平成二十三年事業計画案・収支予算案が原案どおり承認されました。

△新任単位町内会役員研修会
六月十七日開催、六十四名参加。町内会の運営等について研修しました。

△単位町内会長研修会

九月四日・五日秋保にて開催。仙台市震災復興室の職員を講師に「仙台市震災復興計画」について研修しました。

△連合町内会長研修会

十月二十日・二十一日岩手県盛岡市を訪問。盛岡市町内会連合会のみなさんと意見交換を行いました。

《松陵・永和台 百合が丘連合町内会》

昔の田舎の原風景を目指して

会長 宗片 隆文

私たちの連合町内会は

二千六百四十世帯が住む「こじんまりとした連合町内会です。そのせいか、コミュニティは充実していて、六町内会が情報共有や情報交換をスムーズに行っています。

「昔の田舎の原風景づくり」を連合町内会の活動方針・コンセプトにし、各種活動や行事を展開しております。隣近所の顔が見える関係、緑側でみんながお茶のみ話に花を咲かせることができる懐かし風景のある地域、町にしたいと常に役員と地域住民が一緒に活動しています。

今回の東日本大震災で当地域も被害を受け避難所を三ヶ所開設しました。三月十一日午後四時過ぎには、収容人数七百名を超える松陵西小避難所で連合町内会長が運営委員長、あびこ市会議員が事務局長になり、町内会役員と民生委員さらにボランティア総勢四十名が参加した総合避難所運営委員会を開設しました。震災当日の夜は、千二百食を超える炊き出しを行い、避難

者と地域住民に配食しました。十二日には情報通信の途絶えた中、地域防災協定を締結している加美町上区城内営農組合から四名が駆けつけてくれ、運営委員会に参加しました。そして、直ちに必要な物資「水」は、十二日午後に給水車一便が到着し、避難者や地域住民から大喝采で喜ばれました。十四日まで六回にわたり、水、米、灯油、野菜等が届けられました。連合町内会の活動の基本「田舎の原風景作り」をふれずに継続することの大切さ、地域間「絆」の深さを痛感した「コマだった」と思います。

地域の安心安全をテーマに活動を継続する我が連合町内会は夏祭り、六町内会合同の防災訓練、学区民運動会、市民センターまつり、公園の花壇、毎週日曜日の新鮮野菜の朝市等各種行事で地域の絆作りに努めています。

また、少子高齢化が進む中、加美町の「城・陵ファーム」で大根、白菜、蕎麦等を栽培し、子供と高齢者が一緒に種植えから草取り収穫までの農作業を体験していきます。

これら地域が一体化した活動を通し、私たちの松陵・永和台百合が丘連合町内会、フェイスストフフェイスの田舎の原風景を構築しております。

《加茂連合町内会》

完成したばかりの避難所運営マニュアルが活躍

会長 阿部 晃

加茂団地は、泉区の歴史公園・長命館公園を中心とする丘陵地帯に広がる団地です。加茂連合町内会は、六町内会と三自治会の二千十五世帯で構成されていますが、世帯数は、年々減少しています。年間的主催行事は各種団体懇談会・夏祭り、県議・市議との懇談会で、さらに各種団体との共催で、総合防災訓練、チャレンジスポーツ、研修会などを行っております。

加茂地区では、ボランティア活動が、とても盛んで、その活動を支えているのは、長年献身的に継続して活動している各種団体の役員の方々です。連合や各町内会の役員は、毎年代わることもあり、それを改善するために平成十七年から、意欲ある方に連合町内会へ参加していただけるよう役職者の資格規定を見直しました。

さらに、平成二十年度から各種団体の代表に連合役員会に参加していただきに協力していく仕組みを作りました。その一つの成果が現れたのが、三月

十一日以降の避難所運営と在宅高齢者などへの支援でした。

加茂連合町内会と加茂地域防災協議会は、加茂小・中学校の校長にも出席していたたき、避難所運営マニュアルの検討を行ってきました。そして、昨年

二月には、仙台市の担当者も加わり、マニュアルを完成させました。三月の震災では、このマニュアルに基づいて、町内会、防災協議会、社会福祉協議会、民生委員などがそれぞれ避難者と総務班などを組織し当番を決めて、避難所を運営しました。また、在宅高齢者への支援はガスが復旧した四月二日まで続けました。この活動を支えたのは、お互いを信頼しあう気持ちです。

加茂団地は、超高齢化団地となっており、この状況で町内会各種団体役員員の負担を減らし活動を続けていくことと若い世代へ町内会活動などへの参加をいかに促していくのが課題です。今後多くの方々と手を携えて取り組んでいきたいと思ひます。



加茂団地夏祭り 子供みこし

